

式		仕業用機械	台数	備考	
カッター					
トリール		五			
オーガ					
コルピワ					
空負履編機					
式	屋敷機械名	路付筒名	種類	太マ馬力	備考
捲揚機	二双口	蒸気機	十二吋		一台 二台 備 考
コマア	二双口	電気	十馬力		
標式	選炭機名	種類	台数	一時間能力	
	シロ式	捲揚機			
標式	主要の風機種類	公林送風量	原動機馬力	備考	
	シロコ型の風機	三万立方呎	三十馬力		
標式	掛付の履機	掛付箇所	公林排水量	原動機馬力	台数
	シロコ型	三坂ツボ下	七五立方呎	百二十馬力	式
	シロコ型	三坂ツボ上	四十三立方呎	八十馬力	式
	シロコ型	三坂ツボ下	三十三立方呎	四十馬力	式



誌

一昭和十四年度是出炭高、對シ年度、依、減少セル理由

人員不足、炭坑軌送入手難為

一昭和十四年度是出炭高、對シ昭和十四年度出炭高、是増

カセル理由

抗張ニ依リ増産ノ手段

一昭和十四年度、月別是出炭高、對シ昭和十四年二月末日迄、

出炭高、是増高トシ、對シ、是夜

十一年

四月

二〇〇〇

五月

二〇〇〇

六月

二〇〇〇

七月

二〇〇〇

八月

一九七五

九月

一九四一

十月

一九九一

十一月

一九九六

十二月

一九〇六

合計

二〇〇〇

一九〇六

一九〇六

一九〇六

一九〇六

昭和十四年度、依リ、資材入手及労働力、需給故、對シ、向

今後、對シ、意見、其他増産上支障トシ、十一年、對シ、列挙シ

説明スル

資材、依リ、軌条、輕材入手難、為、作業進行セ、現狀、依

リ、對シ、是、出炭、減少セル、由

労働力不足、為、作業進行セル、釘類不足、為、之、又、建

築、出炭、減少、由、主リ、由

本年、度、増産、計、中、資材、層、厚、リ、軌條、方、偏

相、類、度、由



交付昭和五年 / 月廿六日
 課長 部長 課長 係員

鐵道第二〇

昭和十五年一月廿六日

鑛業部

日吉炭礦 作中

昭和十五年度事業計畫書調製，作
 重要鑛物増産法施行細則第二條，規定ニ依ル
 昭和十五年度事業計畫書提出ニ關シ福岡鑛山
 監督局長ヨリ別紙，通リ照會有之候條昨午
 度，例ニ倣ヒ調書作成，上(圖面ニ統計表等ニ就
 テハ六通)其他本紙ニ就テハ一通(テ可)來ルニ二月二日
 迄ニ確リ御回報相成度此段及照會候也

日本鑛業 二 瀧鑛業所



福紙一五年第二十四號

炭 紙

右炭紙ニ付テハ重要紙物増産法施行規則第三條ノ規定ニ依リ昭和
十五年度事業計畫書ヲ同則第四條ノ規定ニ基キ作成ス
上正副三冊二月十日迄ニ商工大臣宛當面經由提出セラ
ルベシ

茲所事業計畫書ハ別紙様式参照ノ上記載スルヘシ
但シ様式(四)ノ各三通様式(八)圖ヲ提出スルコト
商承等業計畫書ハ昭和十四年四月一日ヨリ昭和十五年三月末日
迄二十五萬噸以上ヲ出炭スル煤産ノ炭礦ヨリ提出スヘキモノニ
シテ昭和十四年四月一日ヨリ昭和十四年十二月末日迄ノ出炭責
績高ニ昭和十五年一月一日ヨリ同年三月末日迄ノ煤産出
炭高ノ計算シタルモノヲ十五萬噸ニ達スルノ算ニシテ

炭紙ハ本事業計畫書ヲ提出スルノ要ナレ又當面支所管轄
区域ノ炭紙ニ在リテハ本事業計畫書ハ同支所經由提出
スルコト

昭和十五年一月十九日

福岡礦山監督局長中村幸八



様式一

礦業事業計畫書

練区所在地

區番號

區名

山名

重要礦物地産法施行規則第三條(イ)右條上ノ地和合ニ基テ事業計畫書書別記及届出被也

年 月 日

住 所

礦業担当者

礦業代理人

何 原

印

商工大臣 殿

注意事項

事業計畫書ヲ礦業代理人ヨリ提出スル場合ハ必ク該業担当者ヨリ各件狀ヲ添附スルコト

様式二

事業計畫書

(一) 採來ノ地段ノ大要

(二) 採礦名 結業権者名

(三) 昭和四年度出采高

昭和四年四月一日ヨリ同月十二月末日迄ノ出采高ノ總和拾五

年一月一日ヨリ同月十二月末日迄ノ出采高ノ總和拾ニケルモノ

ヲ記入スルコト

(四) 主要設備ノ位置ノ名称及向ノ便所及厚クニ注意被取附ク

添附スルコト

(五) 採方ノ法

簡潔ニシテ採掘法ヲ詳細ニシテ記入スルモノニシテ添附

スルコト

(六) 採方ノ法

採掘法ノ一時間ノ採方ヲ示シテ採掘場内ノ記入スルコト



火温炭方法

取板元重量、精炭ノ性別、数量、系統圖、各選炭做、能力(時間ノ函力)一日、作業時間ヲ記入スルコト

(4) 遺頁方法、(一) 系統圖

(主) 葉腐風做ニ付テハ、(副) 葉(乾草) 水圧(電力) 回轉數(噸数)

二 炭做機馬力、使用馬力、(乾草) スルコト

炭質録本ノ狀態ヲ明カニシ、試種計畫ハ、試種箱新方法及有的等々、精炭計畫ハ、精炭ノ箱新、方法、設備等ヲ記載シ之。説明シ、(主) 葉腐風做ニ付テハ、(副) 葉(乾草) 水圧(電力) 回轉數(噸数) 炭做是巨域ニ提内回ニ回示スルコト

三 炭做数量

昭和五年四月一日ヨリ昭和六年三月三十一日迄ノ炭做出炭高ヲ各月別ニ(1) 精炭ニ依リ記載シ兩表ニ別ニ(四) 兩表ニヨリ記載スベシ

但シ表中前年度ノ欄ニハ昭和四年四月一日ヨリ同年十二月末日迄ノ出炭量(精炭) 昭和五年一月一日ヨリ同年三月末日迄ノ炭做出炭高ノ見込ニ相當シタルモノヲ記入スルコト

(5) 精炭 昭和五年定月別出炭高表

年	期	精炭出炭高	見込	見込	見込	見込
昭和五年	一月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	二月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	三月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	四月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	五月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	六月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	七月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	八月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	九月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			
	十月	〇〇〇〇	〇〇〇〇			

高(昭和拾五年度)及拾四年度所定換定高ノ合計ニシテ、ニ載テ其
 額自家明費也數ト取資也數トニ分テ取資也數ハ右表ニ
 記載スルコト

向拾五年度末坑所貯炭見込ニテ、八〇八噸載スルコト
 表中前年度ノ欄ニハ昭和拾四年度四月一日ヨリ同年十二月末日迄ノ正炭
 實績ニ昭和拾五年度一月ヨリ同年三月末日迄ノ豫定正炭高ヲ
 加算シタルモノヲ記入スルコト

用途別	取資先別	無煙炭		煙炭		備註	合計
		前年度	今年度	前年度	今年度		
製炭業	會社	前年度					
		今年度					
其ノ他	計	前年度					
		今年度					



昭和十四年度末

十一月	十二月	一月	二月	三月	計
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

(四) 炭表
炭採別炭表

採種別	無煙炭		煙炭		燐石合計
	前年度	今年度	前年度	今年度	
塊炭	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
切込炭	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
計	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

計	粗炭		粉炭	
	前年度	今年度	前年度	今年度
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

但し表中粗炭と既天産物別ニ別表ヲ添付スルコト

運搬開スル計畫ノ概要

初期ヨリ運搬場ヲ通シテ本線積込野入港頭ニ至リテ運搬方法ヲ改良スルコト

運搬ノ分子詳記スルコト
尚運搬方法ハ系統圖ヲ示シ各運搬機ハ一時間ノ能力ヲ示シ且ツ一日ノ作業時間ヲ記入スルコト

炭分方法

昭和十四年度末(昭和十五年三月末)坑内貯炭量及高ノ揚分當拾五年度出炭



注意

- 一 本年及事業計画ハ生産資料及労働力ノ供給状態ガ十三及十四年度ト文
件關係程度ノ状態ヲ有ルモノトノ前提ニ於テ之ヲ樹立スルコト
- 二 数字關係ヲ涉リ事業計画ヲ樹立セル基礎ニマツテハ数字間ノ計画ノ文字
ヲ凡件セ記載スルコト
- 三 事業計画ノ記載スベキ内容中数字ノ涉ル部分ノ数字ハ前者ノ数字ト
比較記載スルコト(前年度ノ数字ハ未ダスルコト)
- 四 從來ノ施設ノ大要ヲ前記表格ノ後ニ記載シ適當年度ノ事業ノ大要ヲ
凡件記シ得ル欄ニ又ハ重要計画ノ数字ハ詳細ノ記載スルコト
- 五 本計画書第一欄ノ五項四項五項六項七項ノ採算運搬費及運賃及排水・
関支ノ使用費概ハ左ノ様式ニヨリ一覽表ニスルコト(採算箇所ノ採内圖
一覽表中ノ採算ノ採算及運賃ノ間ニスルコトヲ除ク)採算箇所ノ採内圖
又ハ採内圖ノ記入スルコトヲ明示シ其ノ様式年月日ヲ備考欄ニ記入
スルコト

式

採算用機械	臺數	備考
カフター		
ドリル	五	
ダイガー		
エールピフ		
空氣壓縮機		

注意事項 空壓壓縮機ハ備考欄ニ共(大サ(馬力)ヲモ記入スルコト

比自

運搬機械名	採算箇所名	備考	大サ(馬力)	備考
カフター	採算箇所			
ドリル	採算箇所			
ダイガー	採算箇所			
エールピフ	採算箇所			

注意事項 採内圖ノ分ヲ記入スルコト



張式

鐵皮板名稱	種類	數量	一時所需力	備	考
鐵皮板	鐵皮板	克	十匹		

張式

主要機器種類	公稱容量	原動機馬力	備	考
主要機器	五匹至十匹	五馬力		

張式

抽水機種類	抽水機所	公稱排水量	原動機馬力	容量	備	考
抽水機	抽水機	五至十公升	五馬力	一		

12



様式三

記

昭和四年度、事業計畫ノ確定出成高ニ對シ同年實績高額中
四月一日ヨリ同年十二月末日迄ノ實績高は昭和五年一月ヨリ
三月末日迄ノ確定出成高ニ見込ニ加算シテセヨ。於テ出成ニ
増減ハ注シテル理由

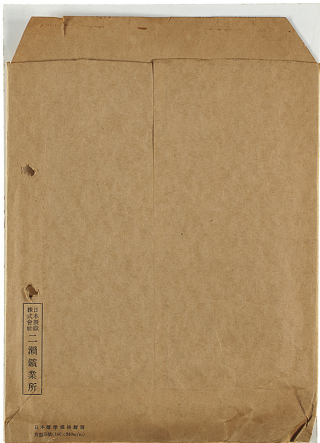
昭和四年度ノ實績高ニ對シ昭和五年度ノ事業計畫ノ確定出
成高が増減シテル理由 **増原、存リ、存、存、存**

昭和四年度ノ月別發生出成高ニ對シ昭和四年十二月末日迄ノ
出成高は續前トノ對照ニ求

○ 昭和四年度ニ於ケル買入ノ入手及労働力ノ供給状態ニ對シ物
今後ニ對スル意見並ニ其他増産上ノ障トナルベキ事ノ項ヲ別答
シ説明スルコト

昭和四年
三月
日
長
官

例ハバ(一)資材不足ノ事業ニ及ボス影響等
(二)勞力不足ノ事業ニ及ボス影響等
五 其ノ他 事業計畫樹立實施ニ關シ見テラハ其ノ詳細
記載ノコト



株式会社
二瀬
酒造業所

日本酒造業協同組合
製造所 1962年製



十七年度

事業計畫

書在中

圖面五通

在中

十六年三月二十六日駁提出控

日本銀行 二級紙業所

昭和十六年十二月六日

銀通第一六五號

債 類 郵 長

日 告 類 長 殿

重要債物増減法施行規則第二條ノ規定ニ依リ昭和十七年度事務計
畫ノ開期第四條ノ規定ニ基キ別紙様式遵照本文二通、圖面七通作
部ノ上十二月二十七日迄ニ當所へ提出相成宜候



昭和十六年十二月六日



附

留東監督局後田事務計費月例出費及各事務期計費月例出費、其他
ニ於テ豫定出費取費額ヨリ概々方面ニ支障ヲ来セオレバ之ガ一元
化ヲ計ルベク將來其ノ年間ヲ越ジ監督局提出事務計費月例豫定ハ
上、下額同額)ヲ並置トスベキ事ニ決定致セオレバ會計費ノ節、
技術取扱、設備日費、青年ノ賞給、債権増減等充分の調査研究ノ
上決定相成度候

一、各事務期計費ニ於テ技術取扱ニモテ採摺ケ所等取費アルモ月
額豫定出費ニ於テハ監督局提出事務計費ト合致セシメラレテ

昭和十七年度事務期計費豫定出費ハ昭和十六年九月十六日
局長會議ニ於テ決定セシ(部長、二部長、秘書長)合議取
ニ合致セシメ同月例豫定出費取費ヲ決定スルコト

二、漸級案所

組合事務費 10,000 圓
内部精製 二圓
事務費 四圓

包圍費ニハ内部取費記入ヲ不要
五月例豫定取費ハ二位取ヲ等トス
例ハバ四月 一五七〇〇圓 五月 一六九〇〇圓

包シ巴ムヲ得ザル場合ハ五〇〇ヲ差取取トスルコト
例ハバ四月 六六五〇〇圓 五月 六八五〇〇圓

同(片先取ヲ除ク)
例ハバ四月 六六五〇〇圓 五月 六八五〇〇圓

✓(様式二)ノ一ノ四 技術費取回ハ取回不要

(様式二)ノ一ノ四 包圍費月例豫定ニ於テハ部長、二部長、秘
書長ヲ内部スルコト、技口二位以上ノ額(技)ハ合計月額
出費ヲ内部スルコト

(様式二)ノ五 庶分方法申請記入ヲ不要

五、包圍費 1,000 圓
事務費 1,000 圓



スニ

運搬系統圖及び排水系統圖ハ一層面ニ記入シ排水ハ赤色ニテ着色スルコト

排水圖面ニハ渠ヘ付ケ箇所、馬力、流量ヲ記入スルコト

其他圖面記入方法ハ前年ニ同じ

採掘計畫圖面ニ於テ重複スル長層アル場合ハ下層ヲ土藏トシ上層ニツレ順次切り掘リヲナシ一放トスルコト

圖面縮尺三千分ノ一トス

六 認察方法 (左ノ表ヲ附スベシ)

運炭場名	取扱 元振	精製 小振	精製 粉製	計	一時能力 刀	採掘 時間 一日
	(一日)					
		(一日)	原料炭			

七 運搬ニ關スル計畫ノ概要 (左ノ表ヲ附スベシ)

既設ノ運搬設備ニ主ナル新設又ハ改善スベキモノ

二 運炭業務

箇所名	機名	馬力又ハ能力	備考 (説明)

八 採炭ニ關スル計畫ノ概要 (左ノ表ヲ附スベシ)

箇所名	長層名	量採相法	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	備考
			採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	
			採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	
			採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	
			採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	
			採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	
			採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	採炭機	

外採炭場準備ニ必要ナル坑道外特ニ主要ナル場所

坑道名	炭	層	掘進延長	採定	備考 (説明)





岩手県

調査書

採式二 第一 調査書

調査書

(1) 是礦也

(2) 昭和十六年度出炭高

昭和十六年四月一日より同月十二月末日迄出炭高は昭和十七年一月一日より同月十二月末日迄出炭高に較比若干パーセント増減あり

(3) 主要炭層ノ位置、石碕、走向、傾斜、厚さ、炭層柱状図ヲ添付スルコト

(4) 採炭方法

(5) 運搬方法

運搬方法、一、系統圖

各運搬段ノ一時間、鉛力、ホシ一日、採炭時間、記入スルコト

運搬方法

採炭方法、一、系統圖

各運搬段ノ一時間、鉛力、ホシ一日、採炭時間、記入スルコト

運搬方法

採炭方法

採炭

採炭

(一) 時間、鉛力、一日、採炭時間、記入スルコト

主要炭層位置、石碕、走向、傾斜、厚さ、炭層柱状図ヲ添付スルコト

(2) 試強及炭質、同々、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

炭質調査、試強、針畫

(一) 二月、三月、四月



(1) 碎炭
昭和十七年度月別出炭高按炭表

月別	出炭高	何	何	何	何
四月
五月					
六月					
七月					
八月					
九月					

計	十月	十一月	十二月	昭和十八年	一月	二月	三月

出炭表	炭種別	碎炭	整炭	青炭	炭	塊石	合計
-----	-----	----	----	----	---	----	----



不
申

炭成業		用途別		取 賣		先 列		炭 價		備 考		備 考		備 考		備 考	
會社	會社	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列	先 列
前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度
今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度	今年度

昭和十九年度水一昭和十七年五月末日) 煤所貯炭予定高
 場中學校七年度水及高一) 及十九年度水貯炭定高、計
 計ニシテ、計ノ炭積消費懸數ト取賣懸數トニ
 十取賣懸數ハ在表ニテリ記載スルコト
 昭和十七年度水貯炭貯炭凡込ニテラ記載スルコト
 東中貯炭度、欄ニハ昭和十八年四月一日ヨ、昭和十九年
 五月迄、或成實積ニ昭和十七年一月ヨ、昭和十九年五月迄
 ノ見込出炭高ヲ加算シタルモノヲ記入スルコト

西

(13) 煤積ニ関スル計量ノ擔要
 初期ヨリ運搬場ヲ通ジテ本線積込駅又ハ港頭ニ至ル迄ノ
 運搬方法ノ様内外運搬ニ合テ洋記スルコト
 尚運搬方法ハ系統統番ニ合テハ各運搬機ハ一時間ノ能力
 水ニ五ツ一日ノ積業時間ヲ記入スルコト
 (14) 炭積方法

計	粗 炭		粉 炭		切込炭		總 炭	
	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度



様式

遊水板域名	種類	量数	一時的余力	備	考

様式

主要自然種類	公法遊風量	原動機出力	備	考

様式

遊水板前種類	遊水板前種類	公法遊風量	原動機出力	量数	備考

様式三

記

一 昭和十六年度、事業計画、予定出力高、對し固有実績表
 (昭和十六年四月一日、)同前十二年六月日迄、実績高、昭和
 十七年一月、)對し成長、増減を示し、理由(三月廿〇日迄)
 二 昭和十六年度、実績高、對し昭和十七年度、事業計画、
 予定出力高、増減を示し、理由
 三 昭和十六年度、月別予定出力高、對し昭和十六年十一月
 及び迄、実績実績高、)對照表
 四 昭和十六年度、於し、)実績、)入干支、)高給状態、)記
 五 昭和十六年度、)実績、)其他増産上、)得、)十、)千、)手、)用
 六 昭和十六年度、)実績、)及、)心、)影響等

(四) 余力不足、事業、)及、)心、)影響等
 五 昭和十七年度、)実績、)在、)出、)心、)必要、)所、)要、)公、)入、)款、)
 六 月別、)実績、)昭和十七年三月、)日、)在、)持、)續、)入、)是、)迄、)数、)

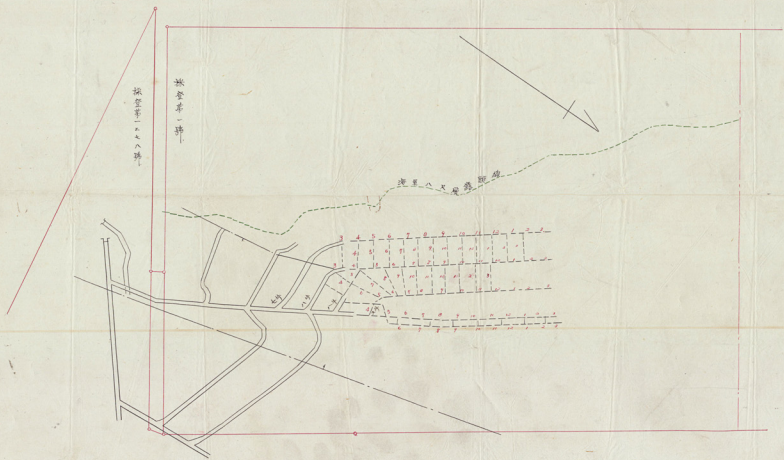
不
不

對上之レテ是足計画又買數ヲ(内地人并島人別)別レ
考欄ニ記載スルコト
大和十七年度手取出成爲ノ差出スルコト必書シテ買換ノ需
要量ヲ添付スルコト
之ヲ取用原野成又ハ先斯安生分用成ノ指定ヲ受ケテ取換
ノ在リテハ之ヲ別出成取量ヲ記載シ製鉄原野成又ハ
先斯安生分用成上一級用成ト區別シテ之ノモトモ
ルコト
八度ノ他亦中取計画附立資料ニ関シ卷見下ラハ其ノ詳細記
載ノ事



昭和十七年度事業計畫第一号苗圃 尺度十分之一

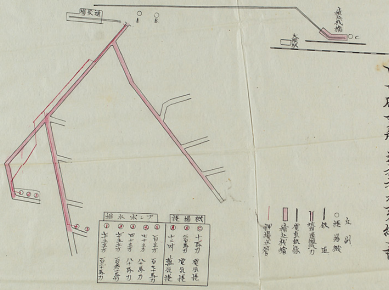
一 主要炭層位置
二月別主要坑道掘進予定区域苗圃
採炭予定



昭和拾七年度事業計畫圖

第三節 苗

日吉礦業所運搬排水系統計畫



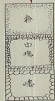
双道炭坑限代特

01000

小ブロー

ボケット

フイラー



貯炭場

日吉磁業所送炭系統圖

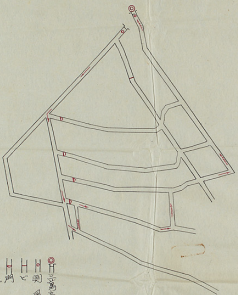
貯炭能力拾三噸

昭和拾七年度事業計畫圖

水田等圖



昭和拾七年度事業計畫圖(第五期)通氣系統圖



↑	↑	↑	↑	↑	↑
↓	↓	↓	↓	↓	↓
↑	↑	↑	↑	↑	↑
↓	↓	↓	↓	↓	↓

↑ 送風機出口
↓ 送風機入口
↑ 換氣機入口
↓ 換氣機出口
↑ 送風機入口

昭和拾七年度事業計画書

(第三號書)

日吉磁業所炭層柱状圖



昭和十七年度重要計畫書

日吉炭礦

様式二

一 従来ノ施設ノ概要

(1) 炭種名 日吉炭種 産産地者 日吉炭礦業株式会社

(2) 昭和十六年度出炭量 三五〇〇噸

(3) 主要炭層ノ位置 添付圖第一號圖参照

名稱 海軍八尺層 走向平均百三十二度

傾斜 平均十六度 厚さ 四尺

炭層柱狀圖 第二號圖参照

(4) 採炭方法

共同石炭株式會社日吉炭礦

前進式長壁採炭法ヲ用ヒ 掘鑿ニハ帶狀

狀採炭機、木柱及大徑掘ヲナス

(5) 運搬方法

系統圖第三號圖参照

切替ハチェーンコンベアヲ以テ希薄シ搬立ニ

于押送シ試百馬力電氣捲揚機ニ依リ坑外ニ運

搬シ坑外貯炭場ヨリ聯管車軌込場迄ハ三脚車

電氣機關車ヲ以テ搬出ス

(6) 選炭方法

系統圖 第四號圖参照

選炭機ニヨリ塊中粉ノ三種ニ選別ス



取扱元数量	種	神炭	神炭	神炭	神炭	神炭
一六〇種	一五	二八	一〇〇	一四三種	一三種	十一時組

神炭呼吸器

第五號圖参照

排氣坑口ニ主要扇風機ヲ設置シ坑内各部ニハ
 局部扇風機ヲ用ヒ其他送氣設備ト相俟テ設備
 々所ニ新鮮ナル空氣ヲ供給シ不良空氣ヲ排除
 ス

昭和十七年度ニ於ケル事業計畫ノ概要

①試鑿及探炭ニ關スル計畫

- 一 地質調査状況 第三紀層調査ハ陸坑探査第一二七八號領内ニ變リナシ

共同石炭株式会社日吉炭礦

一 試鑿計畫 ナシ

一 探炭計畫

探炭箇所日吉二坑左新卸八片第九片場
 方法 五〇米ノ巨鑿盤ニ片盤坑道ヲトリ片盤窟潜
 再掘トシ切羽ハ切羽ニツドリル、火藥ヲ使用シ
 チェンコンベヤーニテ箱籠シ捲立高手料トシ二
 百馬力ノ電氣捲揚機ニ依リ坑外ニ採出ス

井別 主要坑道掘進予定探炭予定区域圖

第六號圖参照

探炭ニ關スル計畫ノ概要

場所名	炭種名	炭種	探炭法	探炭機	切羽設備	坑内設備	備考
二坑左新卸	片盤重八片	炭種	探炭法	探炭機	チェンコンベヤー	片盤捲揚	



因出炭數量

(引覽表 昭和十七年度月別出炭若干定表 (朱書八十六年實態))

計	粉炭	中塊炭	塊炭	炭種別	出炭數量	
					出炭數量	出炭數量
前年度	14000	17000	14000		17000	35000
今年度	14000	17000	14000		17000	35000
前年度	17000	14000		非常炭	1100	18100
今年度	17000	14000		非常炭	1100	18100
前年度				炭種別	17000	17000
今年度				炭種別	17000	17000
前年度				炭種別	14000	14000
今年度				炭種別	14000	14000
前年度				炭種別	1100	1100
今年度				炭種別	1100	1100
前年度				炭種別	17000	17000
今年度				炭種別	17000	17000
前年度				炭種別	1100	1100
今年度				炭種別	1100	1100
前年度				炭種別	17000	17000
今年度				炭種別	17000	17000
前年度				炭種別	1100	1100
今年度				炭種別	1100	1100
前年度				炭種別	17000	17000
今年度				炭種別	17000	17000
前年度				炭種別	1100	1100
今年度				炭種別	1100	1100
前年度				炭種別	17000	17000
今年度				炭種別	17000	17000
前年度				炭種別	1100	1100
今年度				炭種別	1100	1100
前年度				炭種別	17000	17000
今年度				炭種別	17000	17000
前年度				炭種別	1100	1100
今年度				炭種別	1100	1100
前年度				炭種別	17000	17000
今年度				炭種別	17000	17000
前年度				炭種別	1100	1100
今年度				炭種別	1100	1100
前年度				炭種別	17000	17000
今年度				炭種別	17000	17000
前年度				炭種別	1100	1100
今年度				炭種別	1100	1100

共同石炭株式會社日吉炭礦



(9) 運搬用鋼スル計器ノ概要
別ニ新計畫ハ之無ク運搬系統ハ運搬方法中ニ明記

セリ

系統圖ハ第三號圖參照

蓄電池一時間ノ動力(一臺十五噸)操業一日十一

時間

(電機)
既設ノ運搬設備ニ主ナル新設又ハ改善スベキモノ

箇所名 機名 動力又ハ電力 備考

大隈運搬込陸橋 電氣橋 三十馬力 從來十馬力ヲ
三十馬力ニ改設ノ目下準備中

(4) 区分方法

三 更 束 平 末 貯 炭 ナ シ

共同石炭株式会社 日吉炭礦

使用機械一覽表

採炭用機械

深炭用機械	台數	備考
カッター	五	
ドリル		
オーガー		
コイルピツク		
空氣壓縮機		目下注文申

運搬機械

運搬機械名	備付箇所名	種類	太サ(馬力)	備考
熱風機	日吉二坑坑口	電氣	二百馬力一台	



様式三

配

一十六年度予定見積出炭高ロリ實積ニ於テ四千噸ノ炭產理由
ハ水害ニ依ル爲

二十六年度ノ出炭高ニ對シ十七年度予定出炭高五千二百噸ノ

増產理由ハ水害復舊致シ爲

三十六年度月別予定出炭高實積對照表

十 六 年	予 定 實 積	積	予 定 實 積	積	予 定 實 積	積	
四月	二八〇〇	四〇八〇	七月	三三〇〇	三六四〇	三二一六	
五月	三〇〇〇	三三三三	八月	三〇〇〇	二四五九	三三三〇	
六月	三三五〇	二二八四	九月	三三五〇	三〇〇四	十二月	三三五〇
							三〇〇〇

共同石炭株式会社日吉炭礦

昭和十六年度ニ於ケル資材ノ入手及勞働力供給狀態ヲ記シ

尙後ニ對スル意見

釘、鐵槌不足及普通スル機械器具ノ承認早ク願フ

五
六
七
八





福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈

共

共同石炭
株式会社

日吉炭礦

電話(天隈局)二一番

福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈

共

共同石炭
株式會社

日吉炭礦

電話(大隈局)一一番

同井
及化
年
年
年
控

口
飲



縮尺十二百分之一



姓名	張學良
職稱	少將
軍號	...
...	...

張學良
少將



圖三
未詳
...

共

共同石炭
株式会社

日吉炭礦

電話(大隈町)二一零


福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈



乙未七月

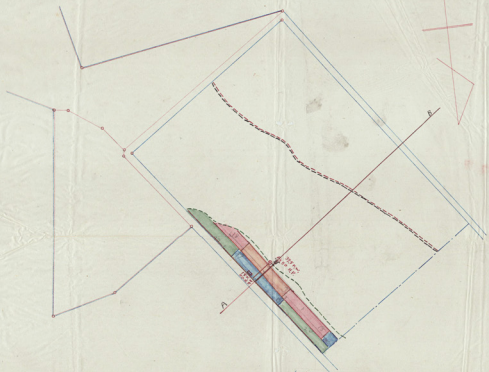
廿一日

日麻柳筆次坊虫

收銀 2/2 = 70			
東京			
			

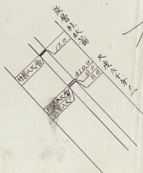


竹藪尺層五年採掘予送品圖 尺度六分，一

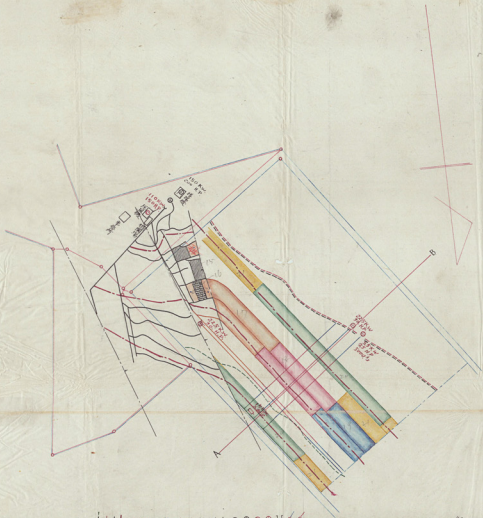


〓 竹藪
 〓 尺層
 〓 五年採掘
 〓 予送品
 〓 圖
 〓 尺度六分，一

A.B. 尺層
 2024年



上海第八層五十年探掘予定面 尺度六十分之一



① 新成層
 ② 新成層
 ③ 新成層
 ④ 新成層
 ⑤ 新成層
 ⑥ 新成層
 ⑦ 新成層
 ⑧ 新成層
 ⑨ 新成層
 ⑩ 新成層
 ⑪ 新成層
 ⑫ 新成層
 ⑬ 新成層
 ⑭ 新成層
 ⑮ 新成層
 ⑯ 新成層
 ⑰ 新成層
 ⑱ 新成層
 ⑲ 新成層
 ⑳ 新成層
 ㉑ 新成層
 ㉒ 新成層
 ㉓ 新成層
 ㉔ 新成層
 ㉕ 新成層
 ㉖ 新成層
 ㉗ 新成層
 ㉘ 新成層
 ㉙ 新成層
 ㉚ 新成層
 ㉛ 新成層
 ㉜ 新成層
 ㉝ 新成層
 ㉞ 新成層
 ㉟ 新成層
 ㊱ 新成層
 ㊲ 新成層
 ㊳ 新成層
 ㊴ 新成層
 ㊵ 新成層
 ㊶ 新成層
 ㊷ 新成層
 ㊸ 新成層
 ㊹ 新成層
 ㊺ 新成層
 ㊻ 新成層
 ㊼ 新成層
 ㊽ 新成層
 ㊾ 新成層
 ㊿ 新成層

AB 断面

新成層	新成層	新成層	新成層
新成層	新成層	新成層	新成層
新成層	新成層	新成層	新成層
新成層	新成層	新成層	新成層

共

共同石炭
株式會社

日吉炭礦

電話(大塚局)二一番

福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈

70
能取茶紙 1/2

層行 2 炭 包

光自皮 出 炭 包 300g

林 包 200g

竹 包 200g

中 包 皮 出 炭 包 300g

下 包 200g

中 包 皮 出 炭 包 300g

下 包 200g

大 包

福國糖業 第一 大隈町 大宇平 園
日 吉 炭 礦
株式會社
昭和十一年

昭和 十一年 十月 廿日

福國糖業



控

十年皮子家
計書一乙



昭和十七年十一月廿一日

葛藤郡大塚町大字牛原

共同石炭株式会社 日吉炭礦

細 節 炭 礦 長 股



昭和十八年度出現決定並報告 (二礦本部提出物)

月 別	數	量	月 別	數	量
四 月	三六〇〇	噸	十 月	三六〇〇	噸
五 月	三六〇〇	噸	十 一 月	三六五〇	噸
六 月	三五〇〇	噸	十 二 月	三六九〇	噸
七 月	三五〇〇	噸	一 十 九 年	三四〇〇	噸
八 月	三四〇〇	噸	二 月	三二〇〇	噸
九 月	三四〇〇	噸	三 月	三四〇〇	噸
計	四二〇〇〇	噸			

共同石炭株式会社日吉炭礦

右ノ通り報告申上候也



史光文原稿

	按	抄	笔
和 $10 \times 25 = 250 \times 4 = 1000 = 300$		$900 = 1200$	
$22 \times 15 = 300 \times 2 = 900 = 280$		$630 = 10800$	
原 $75 \times 30 = 225 \times 5 = 1125 = 280$		$900 = 13200$	
	710	220	$3 \frac{1}{2}$
计 3080			

5.1.2 880

$$\frac{1}{19} - \frac{20}{12} = 50 \text{ p} = \frac{25}{19} \times (100 \frac{5}{19} \times \frac{6}{19} - 15)$$

- 8577 15元

標榜第八四號

昭和十七年十一月 日

誠 信 記

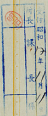
株式會社
二瀬製業所

日吉

朝 長 殿

昭和十八年度に於ける起程費並に作樂費等成に付左記ノ旨御座提出
致ス様本席ヨリ御返有之候隔來月十一月十八日迄ニ本文二送、關御
御返轉請出相成度也

予之出資 四二〇〇 円



一、昭和十八年度ニ於ケル事務計画ノ概要

ニ、業務及事務ニ関スル計画（但シ是等諸事ハ本誌）

ニ、業務計画ニハ、事業ノ進捗、方法、設備等ヲ記載シ之ヲ説明スル

ニ、是レハ本誌内ニ於テ、業務ノ進捗ニ依リテ、必要ナル事項ニ對シテ、

報告書等ヲ発行シ、之ヲ説明スルコト

ニ、業務計画ニ、年次、月次、業務計画及事務計画ノコト

ニ、業務計画ニ、必要

ニ、業務計画ニ、必要ナル事項ニ對シテ、本誌内ニ於テハ、必要ナル事項ニ對シテ、

必要ナル事項ニ對シテ、本誌内ニ於テハ、必要ナル事項ニ對シテ、

必要ナル事項ニ對シテ、本誌内ニ於テハ、必要ナル事項ニ對シテ、

必要ナル事項ニ對シテ、本誌内ニ於テハ、必要ナル事項ニ對シテ、

必要ナル事項ニ對シテ、本誌内ニ於テハ、必要ナル事項ニ對シテ、

必要ナル事項

○ 昭和十八年度業務計画ヲテ、必要ナル事項ニ對シテ、

（業務計画ニ關スルコト）

（業務計画、所管業務等ニ對シテ、昭和十八年一月末、業務計画

ニ、業務計画ニ、必要ナル事項ニ對シテ、本誌内ニ於テハ、必要ナル事項ニ對シテ、



附

明治十八年三月廿九日特許出願出展ハ、講義、二課員、貴重品、各
許可證、申請セシメ、開明其他月報、開明書、送達スルコト

明治十八年三月廿九日

明治十八年

明治十八年 明治十八年

明治十八年 明治十八年

明治十八年三月廿九日特許出願出展ハ、講義、二課員、貴重品、各
許可證、申請セシメ、開明其他月報、開明書、送達スルコト
明治十八年三月廿九日特許出願出展ハ、講義、二課員、貴重品、各
許可證、申請セシメ、開明其他月報、開明書、送達スルコト
明治十八年三月廿九日特許出願出展ハ、講義、二課員、貴重品、各
許可證、申請セシメ、開明其他月報、開明書、送達スルコト

明治十八年三月廿九日 七月(二十七日) 十月(二十七日) 一月(二十七日)
二月(二十七日) 八月(二十七日) 十一月(二十七日) 三月(二十七日)
四月(二十七日) 五月(二十七日) 六月(二十七日) 七月(二十七日)

明治十八年三月廿九日 七月(二十七日) 十月(二十七日) 一月(二十七日)
二月(二十七日) 八月(二十七日) 十一月(二十七日) 三月(二十七日)
四月(二十七日) 五月(二十七日) 六月(二十七日) 七月(二十七日)

明治十八年三月廿九日 七月(二十七日) 十月(二十七日) 一月(二十七日)
二月(二十七日) 八月(二十七日) 十一月(二十七日) 三月(二十七日)
四月(二十七日) 五月(二十七日) 六月(二十七日) 七月(二十七日)



万葉集ニ載スル計數
銀貫ニ載スル計數ノ數目ヲ載スルト共ニ銀貫又ハ兩也計數ニ付
テハ兩貫ノ數目ノ下ト兩貫等兩貫ニ換テ計數ニ由テル也
附入スルコト
左圖兩貫尺三寸外ノ一



半紙型三板 457

回籠表

炭種別出炭表

炭種別	無煙炭	煙炭	青炭	燐炭	燐石	合計

計	粗炭		粉炭		切込炭		總炭	
	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度
	14708	14708			10708	10708	25416	25416
	31100	31100			16308	16308	47408	47408
							58116	58116
	39308	39308					63924	63924

但し表中粗炭は乾干ハ銘柄別ニヨリ別表ヲ添附スルコト



④ 覽末

炭種別出炭表

炭種別	無煙炭	瀝青	燧石	合計
	粘炭	非粘炭		

計	粗炭	粉炭	切込炭	塊炭
	今年度	今年度	今年度	今年度
	前年度	前年度	前年度	前年度
		四七〇八		
		一六七六九		
		三二八四〇		
		一九三六六		
			五五八〇八	
			三九三三三	

但シ表中粗炭ニ就テハ粘柄別ニヨリ別表ニ添附スルコト



日誌通

(原料) (粉) 計

十七年一月

4	0.333 1.174	1.174	4080
5	1.174	2.159	3.333
6	1.065	1.219	2.284
7	1.532	832	2.364
8	538	1.921	2.459
9	943	2.061	3.004
10	1158	1958	3116
11	1.814	1133	2.947
12	1898	894	2792
1	1478	1581	3059
2	1618	1649	3267
3	1490	1613	3103



	(年)	(赤)	計
4	3052	740	3792
5	2936	633	3569
6	729	1944	2673
7	945	2139	3084
8	704	2125	2829
9	1064	2444	3508
10	1839	1561	3400
11	1700	1600	
12	.	.	
1	.	.	
2	.	.	
3	.	.	
	1977	1986	25335

十七年表

1年



此紙從孫子孫傳之書也。此紙從孫子孫傳之書也。此紙從孫子孫傳之書也。
漢名 地 進 石 界 層 俱 德 社 長 子 克 備 考



昭和十七年十一月十六日

嘉穂郡大厩町

日吉 鐵 業 所



日鐵鐵業株式會社

二種鐵業所 鐵業部 御中

領券第八四號ヲ以テ和示鐵ノ十八年度計畫書別紙ノ通り作製
御送附申上候也



共同石炭株式會社 日吉炭礦



特殊郵便物受領證

受領證號 245

重量 一 斤 郵便料 60 錢

(送附人可決) 叙 外 目錄二種 郵票部 (送附人可決用紙高)	
(送附人可決) 叙 外 目錄二種 郵票部 (送附人可決用紙高)	附 紙
(送附人可決) 叙 外 目錄二種 郵票部 (送附人可決用紙高)	附 紙
(送附人可決) 叙 外 目錄二種 郵票部 (送附人可決用紙高)	附 紙

本郵便物
郵便料
送附人
送附人
送附人

77 年 // 月 // 日 受領

牛隈 郵便局

報 告 書

一、昭和十八年度ニ於ケル那覇計畫ノ概要

(1) 試験及探検ニ關スル計畫

試験ナシ

探検計畫(別添付圖参照)

探検箇所

掘	要	坑口名	個所	方法	設備	概要
		日官二坑	八片、九片	歯片七七番應節	チエンコンパア	
才田坑	右二片	歯片七七番應節	チエンコンパア	チエンコンパア	計畫中	
窟天堀	圖示ノ箇ヲ	用土質救済		三十馬力電機用蓋ス	新シク計畫ス	
備	要	日官一坑、明石坑納長用トシテ採掘中ナルモ何レモ日官坑區ノ爲配設セズ				

(2) 出炭數量

備考	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	二		才		備	災	計
													地	坑	田	坑			
	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	六三〇	六三〇	三〇〇	七〇〇	二〇〇	九〇〇	三〇〇〇
	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	七〇〇	二〇〇	九〇〇	三〇〇〇
	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	二〇〇	九〇〇	三〇〇〇
	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	二〇〇	九〇〇	三〇〇〇
	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	九〇〇	三〇〇〇
	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	二〇〇	九〇〇	三〇〇〇
	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇	九〇〇	三〇〇〇

豫定出炭四万二千噸ニ對シ日産坑區内採掘計畫二万六千七百六十噸ナリ
残リ不足ハ日官坑區ヨリ補充スルモノトス



(b) 運搬ニ關スル事項

日曹二坑

切羽ハ(子エンコンベア)使用(獨立型手押二百馬力電機ニテ坑外ニ捲揚ゲ運長機ヲ通り三形車電氣機關車ニテ積込ミ扉ニ運搬ス扉ニ捲揚機ノ三十馬力電機相付ス

才田坑

切羽ハ(子エンコンベア)使用計量中(獨立型手押)四十馬力電機ニテ坑外ニ捲揚ゲ運長機(目下計量中)ヲ通りエンドレス(目下計量中)ニテ積込ミ扉ニ運搬ス

露天

三十馬力電機(目下計量中)ニテ露天ノ炭ヲ捲揚ゲ運長機ニテ運長シ其後ハ才田坑計量中ノエンドレス使用ス

(a) 處分方法

二、昭和十八年度豫定出炭ヲナシニ必要ナル所定坑夫數割紙ノ通り



採炭ニ關スル計畫ノ概要

合 計	露 天 掘 坑	才 田 坑 右 二 片	日 吉 二 坑 九 片	備 所 名	炭 層 名	炭 量	採 掘 法	探 炭 地	支 柱 切 削 運 搬	坑 頭 運 搬	備 考
三六〇〇〇噸	切込 露 天	切込 前掛掘	切込 片壁掘 前掛掘	海軍八尺	竹藪八尺	132001200010500	片壁掘 前掛掘	ドリル 便 用 材	コンベ ア	片壁掘 片壁掘 片壁掘 片壁掘	新 シ タ 計 畫 中

運搬ニ關スル計畫

坑 別	備 所 名	機 名	馬 力 又 ハ 能 力	備 考
日吉二坑	左 八 片	子エンコンベア	十馬力	一合 搬 送
●	二坑口、坑外	電 機	二百馬力	一合 ●
●	貯炭場ヨリ運搬	蓄電池汽機車	三馬車	一合 ●
●	圓筒込機	電 機	三十馬力	一合 ●
才田坑	左 二 片	チエンコンベア	十馬力	一合 準備中
●	才田坑口、坑外	電 機	四十馬力	一合 搬 送
●	貯炭場ヨリ運搬	電 機	五十馬力	一合 準備中
●	坑 外	電 機	三十馬力	一合 準備中
●	貯炭場ヨリ運搬	電 機	五十馬力	一合 準備中 (才田坑ト兼用)



外探農場ノ原簿ニ収録ナル坑道ノ凡物ニ主要ナル措置ハ次ノ如シ

礦 名	坑 道 名	深 度	層 層	掘 進 程 長 除 定	備 考



四 說表

炭 類 別 出 入 炭 表

炭 種 別	無 標 炭	煙	管	炭	燧 石	合 計
		粘 結 炭				

計	煙 炭		粘 結 炭		切 込 炭		燧 石	
	今 年 度	前 年 度	今 年 度	前 年 度	今 年 度	前 年 度	今 年 度	前 年 度
	一 九 七 六 九	一 四 七 〇 八			一 四 七 〇 八	三 一 一 〇 〇		
	一 九 五 八 六	二 一 一 〇 〇			一 九 五 八 六			
	三 九 三 五 五	三 五 八 〇 八			三 五 八 〇 八	三 九 三 五 五		



目次	確定		檢		車		出		檢 能 車		
	出 展 高	採 支 夫	採 支 夫 坊 內 夫	採 支 夫 坊 外 夫	全 體 夫	採 支 夫 坊 內 夫	採 支 夫 坊 外 夫	全 體 夫			
十八年四月	三六〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇七	〇六六
五月	三六〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇七	〇六六
六月	三五〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇七	〇六四
七月	三五〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇三	〇六四
八月	三四〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇三	〇六三
九月	三五〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇三	〇六三
十月	三六〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇三	〇六四
十一月	三六五〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇七	〇六六
十二月	三六五〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇七	〇六六
十九年一月	三四〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇九	〇六三
二月	三三〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	〇九五	〇六〇
三月	三四〇〇	一六〇	二二	八八	二六〇	七五	八〇	八五	八〇	一〇九	〇六三



圖
面
三
通



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



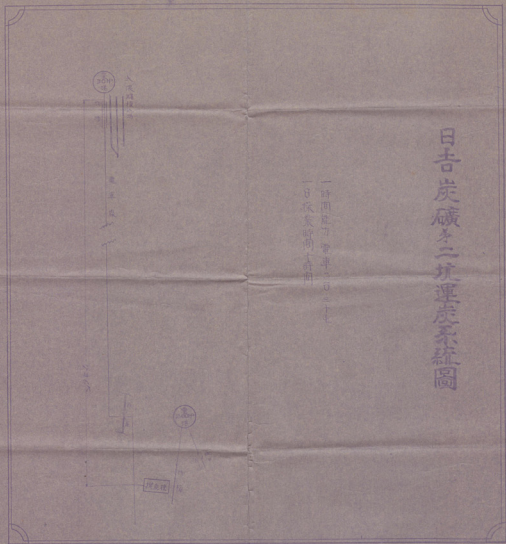
L. 1000

L. 1000
L. 1000

L. 1000
L. 1000
L. 1000

日吉炭礦二坑運炭系統圖

一時間電力 壹年三月二十
一日夜間時間表圖



戈田礦電氣系統圖



10KV
3KV
10KV

10KV
3KV
10KV



共

共同石炭
株式会社

日吉炭礦

電話（大隈局）二一番

福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈

福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈

共

共同石炭
株式會社

日吉炭礦

電話(大隈局)一一番

昭和十八年上期勞務者職別所在籍人員計畫

職別		三月末	四月	五月	六月	七月	八月	九月	平均
坑内夫	助手								
	運送	69	71	71	70	71	71	71	71
	採掘	26	26	26	26	26	26	26	26
	運送	2	2	2	2	2	2	2	2
	採掘	2	2	2	2	2	2	2	2
	運送	2	2	2	2	2	2	2	2
	採掘	2	2	2	2	2	2	2	2
	運送	2	2	2	2	2	2	2	2
	採掘	2	2	2	2	2	2	2	2
	運送	2	2	2	2	2	2	2	2
坑外夫	助手								
	運送	26	26	26	26	26	26	26	26
	採掘	17	17	17	17	17	17	17	17
	運送	12	12	12	12	12	12	12	12
	採掘	20	20	20	20	20	20	20	20
	運送	11	11	11	11	11	11	11	11
	採掘	16	16	16	16	16	16	16	16
	合計	166	167	168	168	167	167	167	167
	合計	166	167	168	168	167	167	167	167
	合計	166	167	168	168	167	167	167	167



1952年7月土塘出泥的及作5-24的统计

统计 类别	堆泥名	箱 数	重量 (斤)	体积 (方)	长度 (米)	宽度 (米)	高度 (米)	重量 (斤)	长度 (米)	宽度 (米)	高度 (米)	在 箱 内	人 数	备 注
干泥班	斜不工法泥	1	13.2	1.2	2.8	1.2	1.2	162	6.2	1.2	1.2	1	1	院... 泥... 泥...
湿泥班	花下泥	2	26.4	2.4	5.6	1.2	1.2	31	1.7	1.2	1.2	2	2	泥... 泥... 泥...
全上	花下泥	2	26.4	2.4	5.6	1.2	1.2	126	1.7	1.2	1.2	2	2	泥... 泥... 泥...
全上	花下泥	4	52.8	4.8	11.2	1.2	1.2	118	3.7	1.2	1.2	2	2	



(2)

昭和十九年上半期通達夫労働数

日当表

地区別	通達名	期及番	四月		五月		六月		七月		八月		九月		計
			通達	人員	通達	人員	通達	人員	通達	人員	通達	人員	通達	人員	
管内	新庄	1	47	2	47	2	47	2	47	2	47	2	47	2	182
管内	花子	2	22	1	22	1	22	1	22	1	22	1	22	1	77
管内	花子	3	46	2	46	2	46	2	46	2	46	2	46	2	138
管内	花子	4	46	2	46	2	46	2	46	2	46	2	46	2	138
計			67	6	122	7	122	12	122	7	122	7	118	7	226
定期通達率															
二十年度平均															
合計															

民國十九年上半期煤炭出入統計表

日 志 炭 礦

出口別	噸數	噸數	四 月		五 月		六 月		七 月		八 月		九 月		計					
			噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數				
本國煤	1	新嘉坡煤	2,000	62	27	2,000	51	27	2,000	13	27	1,900	12	26	1,800	12	26			
暹羅煤	2	暹羅煤	1,200	16	22	1,200	56	22	1,200	16	22					2,700	162	22		
合計	3	暹羅煤							1,900	26	20	1,800	16	22						
合計	4	暹羅煤										1,800	16	22	1,800	16	22			
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
計			2,200	107	20	2,200	107	20	2,200	107	20	2,400	107	21	2,400	107	21	20,000	566	202



控

所長

石炭統制會提出
昭和拾九年度上期事業計畫
昭和十九年四月

石炭統制會
昭和十九年四月



福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈

共

共同石炭
株式會社

日吉炭礦

電話(天隈局)一一番